

氏 名	内野 崇彦
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7193 号
学位授与の日付	2025 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Novel stress tests for diagnosing Little League shoulder, and determining the timing of return to sports (リトルリーグショルダーの診断とスポーツ復帰時期を決定するための新しいストレステスト)
論文審査委員	教授 松川昭博 教授 川口綾乃 教授 中村一文

学位論文内容の要旨

リトルリーグショルダー (LLS) の主因は繰り返し行われる投球動作によって上腕骨近位骨端線に加わる回旋トルクとされている。我々は上腕骨近位骨端線に回旋トルクを加える検査として、抵抗下外旋テスト (RERT) および抵抗下内旋テスト (RIRT) を考案した。本研究の目的は LLS の診断およびスポーツ復帰時期 (RTS) の決定における RERT および RIRT の有用性を検討することである。

LLS と診断された 101 例に対して、RERT および RIRT を施行した。肩に痛みが誘発された場合に検査陽性とした。検査が陽性であった場合、検査が陰性になるまでの期間と RTS までに要する期間を検討した。

LLS に対する感度は RERT の方が RIRT よりも高かった。RERT の方が RIRT よりも検査が陰性化するまでに時間を要した。RTS までの期間は RERT が陰性化してから投球を再開した症例の方が RERT が陰性化する前から投球を再開した症例よりも短かった。

RERT は LLS を診断し、RTS をいつ許可できるかを決定するのに有用である可能性がある。

論文審査結果の要旨

リトルリーグショルダー (LLS) の診断は X 線画像検査で行われる。LLS の主因は繰り返し行われる投球動作による上腕骨近位骨端線に加わる回旋トルクであるため、申請者らは上腕骨近位骨端線に回旋トルクを加える検査として、抵抗下外旋テスト (RERT) および抵抗下内旋テスト (RIRT) を考案した。本研究の目的は LLS の診断およびスポーツ復帰時期 (RTS) の決定における RERT および RIRT の有用性を検討することである。

LLS と診断された 101 例に対して、RERT および RIRT を施行し、肩に痛みが誘発された場合に検査陽性とした。その結果、LLS に対する感度は RERT の方が RIRT よりも高く、RERT の方が RIRT よりも検査が陰性化するまでに時間を要した。RTS までの期間は RERT が陰性化してから投球を再開した症例の方が RERT が陰性化する前から投球を再開した症例よりも短かった。検査時に加える適切なトルク (検者の加える抵抗) の設定、本検査法の特異度など検討の余地はあるものの、RERT は LLS を診断し、RTS をいつ許可できるかを決定するのに有用な徒手検査となる可能性を示した点は評価できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。